

平成29年度 身近な教育委員会・教育施策連絡会

教育委員会室から外に出て、学校等で開催する「身近な教育委員会」及び、区民や保護者と教育施策について話し合う「教育施策連絡会」を下記のとおり実施いたしました。

記

日時：平成29年5月23日（火）18時30分～20時30分

場所：教育支援センター研修室

概要：第1部 身近な教育委員会

- (1) 平成29年度教育予算の概要について
- (2) 新しい学習指導要領について

第2部 教育施策連絡会

「新しい学習指導要領の実施に向けて、教育委員会・学校に期待すること」
※懇談・発表の要旨は、次ページ以降のとおりです。

参加者：75名

(内訳) 保護者等 55名

教育長・教育委員 4名

中川修一教育長 高野佐紀子教育長職務代理者

青木義男委員 松澤智昭委員

小・中学校代表 2名

飯田秀男桜川小学校長 増田裕子板橋第一中学校長

教育委員会事務局関係者 14名

平成29年度 教育施策連絡会 グループ懇談・発表要旨

◎ 各班の発表内容

【A班】

- ・学習指導要領について、初めて知ったことが多かったので、教育委員会から、より一層のアピールや、教育について、もっと情報の発信をお願いしたい。
- ・分かりやすく、子どもが興味を持つような楽しい授業づくりをしてほしい。
- ・授業が分かると勉強意欲に繋がり、学びが楽しくなる。上手な教え方を先生がすることで、勉強に遅れが生じなくなり、いじめや不登校の原因がなくなることを期待している。
- ・読書や読み聞かせを推進するのは素晴らしいことだと思う。
- ・英語を重視して、日本語同様に、自分の気持ちを表現できる大切なツールとして認識してほしい。
- ・現在、先生の置かれている環境はかなり「ブラック」だと感じている。
- ・実際は8：15～16：45が基本とのことだが知らない人が多いと思う。
- ・部活動の指導や、たくさんの宿題を見ることは先生のスキル向上にも繋がると思うが、過剰な状態は教育の質の低下にも繋がると思うので改善してほしい。
- ・PTAのあり方についても見直しの必要性があるのかもしれない。
- ・本日のような意見を言う会合を、より多くの人に伝えてほしい。

【B班】

- ・学校の先生のあり方についての話し合いを行ったが、先生によって温度差を感じることもある。熱心に子どもたちを学びに導いてくれる先生と、今までの指導方法で満足してしまっている先生とが混在しているので、ぜひ熱心に指導してほしい。
- ・新しいことを始めると、子どもたちも喜びるので、新しい取組を期待している。
- ・特別支援教室について、一つの個性として、子どもたち同士が個性を受け入れながら、同じように学校生活を楽しく過ごしていけるような環境となれば良い。
- ・そのためには、保護者に対する理解を、先生・学校が一緒になり、話し合っていけたら良いと思う。

【C班】

- ・社会人力、コミュニケーション力やリーダーシップを高めるという観点で議論を行った。
- ・子どもに学習の必要性や興味・関心を持ってもらうためにはどうすれば良いかを話し合いの入口とし、知識・実技・体験学習について話し合った。
- ・学校だけでは難しいことも多い。一つの方法として、おやじの会や地域・青健を活用し、子どもに体験をさせ、関心を持たせることが良いと思う。
- ・板橋区では八ヶ岳荘の活用を広めてほしい。
- ・世田谷区のパン作り体験、鎌倉市のPTAなどで行う鎌倉寺子屋などの事例検討を行った。
- ・地域活動について、中学校に入ると部活動以外の活動が難しくなる面がある。

【D班】

- 今回の学習指導要領の改訂で具体的に何が変わったのかイメージしづらい。
- 変わった点について、学校・家庭・地域にもっと周知してほしい。
- 具体的に授業がどう変わるのかがイメージしづらい。
- 変わったことについての先生・子どもへの負担が心配である。
- アクティブラーニングでディスカッションを行っているが、ひとクラスあたりの児童・生徒数が多いので、少人数の方が効果的なのではと感じる。
- 教育長の話にあった「何のために学ぶのか」について、先生や地域の体験を聞く機会が持てたら良いのではないかと思う。
- 英語について、大きく変わったと思うが、これからどうなっていくのかが分からない。
- 教育委員会について、何をするとどこかイメージしづらい。特に、教員へのサポートをどのように行っているかが気になる。
- 子どものために熱意をもって色々なことに取組んでほしい。

【E班】

- 学習指導要領についての周知がまだまだ不足していると感じる。
- 小学校の授業増の検討は今後どうなっていくのかが気になる。
- 小学校では英語の楽しい授業を行うが、中学校では受験のため、どうしても楽しくない授業になっていってしまうのではないかと懸念がある。
- 英語に限らず、楽しく学べるように指導する必要がある反面、今度はどのように指導・研修・教育を行っていくのかが課題になるのではないかと感じる。
- 社会性、コミュニケーション力、英語力など、どうしたら社会に活かせるような力が身に付けられるのか、やはり地域の社会から教える部分と先生から教える部分とがあると思う。
- 受験制度の内容が変わらないと、勉強の方法も変わらないのではないかと思う。

【F班】

- 学校公開などで親の目線から思うこと・感じることを話し合った。
- 学校公開ではなく、普段の授業が見てみたいというのが率直な感想である。
- 学校公開の場では、普段と同じような授業をする先生もちろんいるが、外に向けての特別授業が多いと感じる。どちらも見てみたいと思うが、普段のありのままの授業も見てみたいと思う。
- 子どもたちの学力向上について、実際にどんな取組が必要なのか気になる。
- 学力向上について、授業が楽しかったとか、家庭でそういう話が出るかどうか。授業についての話は、小学校低学年のうちには出るが、中学生・高校生になると、そうした話は親子間でできなくなりがちになると思う。
- 子どもの体力の低下が言われているが、子どもたちが体力をつけるために活動できるような公園が少なくなっているのが悩みだと思う。ボール投げなどが自由にできるところがもっと増えると体力ももっと向上していくと思う。

【G班】

- ・英語力について、可能性を広げるツールとなるよう、デジタルやICTなどを活用した英語の授業を行ってほしい。
- ・言われないと分からない・できない子が多いと思う。コミュニケーション力や思いを伝える力を付けてほしい。
- ・特にインターネットなど文字でのコミュニケーションの際には、自分の思いと違うように伝わり、相手を傷つけてしまうことがあると思う。
- ・何かに夢中になることについて、結果にとらわれず、努力を認めてあげる、見守ってあげることを家庭で行うようになってほしい。
- ・社会になじめるような、また同時に、新しいことに挑戦できるような人間に育ててほしい。

【H班】

- ・自分たちが身近に感じていることについて話し合った。
- ・学校公開などでアクティブラーニングを見学したが、初めて見た時には本当に驚いた。
- ・授業のはじめに「本時のめあて」をはっきりと示していた。
- ・体育の授業でも、効率的なバトンの渡し方など、「本時のめあて」がはっきりと示され、分かり易い授業であった。
- ・授業以外に、部活動でも、友達と衝突しながら、お互いに話し合い、上達に向けて努力する体験の一つ一つが大切である。
- ・自分がほしい情報を探し出す力というのが、今後、学習指導要領が求めるところの2030年、社会で生きていく時に必要になるのではないかと感じる。
- ・自分で情報をつかむ・探す経験や、友達とともに話し合い、結論を出した経験を、色々な場面で積むことができると良いと思う。

【I班】

- ・学習指導要領の改訂について、スムーズに移行できるか、心配である。子どもの戸惑いもあるのではないかと感じる。
- ・小学校の英語授業についても気がかりである。
- ・ディスカッションやグループ討議が苦手な子もいる中で、そうしたことを社会的に身に付けることを期待してはいるものの、親もそのような教育を受けていないので、家庭でどのようなフォローができるかが課題である。
- ・グループ討議は一般企業では当たり前ということだが、自由に発言をできるように、正解を決めるというのではなく、こういう意見もあって良いのではないか、ああいう意見も間違いではない、というような話ができれば、子どもたちも取組みやすいと思う。
- ・家庭教育学級などで、親が家庭で行うフォローの仕方などを教えて欲しい。
- ・学校と家庭の情報共有のツールとして、手紙ではなく、別のものがあると良い。

◎ 教育長・教育委員の講評

【教育長】

- ・保護者のみなさま・代表してお越しいただいた校長先生方におかれましては、こうして遅くまで実りのある懇談に積極的にご参加いただいたこと、教育委員一同大変感謝しております。
- ・中国の国際会議に出席した際、板橋のことをたくさん語ってきた。
- ・東南アジアの国々は日本の教育の良さを真似ているところがある。
- ・特に各学校の授業を良くするため、日本の学校では校内で研究を活発に行っていて、先生も研究授業を行ったりするのだが、東南アジアの国々もそれを真似しようとしている。
- ・色々な見方はあるが、日本の学校はとても素敵な活動をしていると思う。それを支えているのが、保護者や地域だと感じる。
- ・非常に残念なことだが、教育委員会の情報発信力の不足、困難さを感じる。
- ・もっと噛み砕いた内容とし、小学校6年生でも分かるような内容にするべきだと思っている。
- ・情報発信がおろそかになれば、何か新しいことを始める際に、教育委員会がどれだけ旗を振ろうと伝わらない事態となってしまう。
- ・「学びの地図」という表現があったが、教育に関して、積極的に保護者・地域に周知していこうという国の姿勢もある。
- ・教育委員会としても、みなさんに伝わるように、学校をフィルターにするだけでなく、直接的に周知できるようにしたいと考えている。
- ・教育委員会で発行している機関紙として、「教育の板橋」「いたばし教育チャンネル」があるが、ご覧になっている方があまりにも少ない現状が今日分かった。
- ・どれだけ一生懸命作っていても、伝わらなければ意味がないと思う。
- ・また、教育委員会ホームページを閲覧した方もあまりにも少ない現状である。
- ・今年度から学校を訪問した様子を掲載している。これは、学校を宣伝する短いコラムであるが、こうした取組さえも宣伝できていない現状を申し訳なく思っている。
- ・みなさんにとって、今回のような魅力的な会合、お帰りの際に、来て良かったと思われるような会合を今後も継続して持ちたいと感じている。

【教育委員】

- ・班の中で日頃みなさんが感じていることをたくさん聞かせていただいた。
- ・学校公開に行っても、授業の変化をなかなか感じられないという声もあった。
- ・板橋区の学校では、授業スタンダードに取組んでおり、保護者にも十分に伝わって、どのようなところを重点的に見ていただくのが良いのか、しっかりとお知らせしていくことが重要である。
- ・特別支援教室の話から、特別支援学級の話が出たが、みなさん身近に感じている印象であった。
- ・昨年と今年で特別支援教室が全ての小学校にできるわけだが、そのことについて、やはりまだ理解できないという話もあった。障がいについての理解も大切なことであると改めて感じる。
- ・板橋区で取組んでいることをもっと知ってもらえるようにする必要を感じる。
- ・特別支援学級があるので、普段から子どもたちが交流を持って、お互いの違いを認め合っている。それが子どもたちにとって大切なことだと思ふし、これからも特別支援教育については大切にしていけるべきである。
- ・先ほどの説明でもあったが、やはり興味・関心をどうやって子どもたちに持たせていくのかが、根っここのところにあるのではないかと感じる。
- ・何のために学ぶのか、それが腑に落ちれば子どもたちは、すごく勉強する。勉強するというより、自分たちが勝手に学び出すといった様子である。

- ・即効性があるキーワードとして、「世界初のことをやってみないか」と子どもたちに語りかけると、目を輝かせて取組む子が多い。
- ・今は便利な時代で、インターネットを使えば何でも手軽に調べられる。これは小学生・中学生・高校生・大学生、誰であってもそうなので、子どもたちには、「君たちでもできる」という自信を持たせていきたい。
- ・その後押しを家庭・先生が少しだけしてやれば、子どもたちは大人が考えるより、意外に大きなことを成し遂げるものだ。
- ・私もいくつかの事例を見てきたが、可能性を信じてあげることが重要である。
- ・また、後押しの仕方について、こだわっていくことも重要である。
- ・先生だけでは難しいので、家庭・地域、おやじの会といったものがキーワードを投げかけることで、子どもは十人十色なので、何かで引っかかれば、子どもの興味・関心につながる。一人一人の可能性を信じ、きっかけとなるようなキーワードを投げかけてほしい。
- ・素晴らしい意見をたくさん聞かせていただいた。
- ・やはり大事なこととして、みなさんが教育委員会というものがどのようなものなのか、あまり知られていないことがよく分かった。
- ・3年前に教育委員になり、真摯に取り組んできたが、教育大綱・教育ビジョン・学習指導要領など、素晴らしいものがたくさんあるが、一般の保護者にはなかなか伝わりづらいものであると感じている。
- ・教育委員として、みなさんの声を伝えていくことが、自分の使命であると改めて感じた。
- ・子どもたちへの思いはみな一緒だが、それぞれの立場によって、その思いが共有できていないのではないかと思う。
- ・私たちもみなさんとともに一生懸命に取り組んで、板橋の子どもたちが板橋で良かったと思えるような学校・教育委員会・まちを作っていければ良いと思う。
- ・今日は色々な意見を聞いて本当に良かった。今後もこのような機会を持ちたいので、恥ずかしがることなく、活発な意見のやりとりを期待したいと思う。